

奴国かわらばん

第一号
令和二年八月二五日

『奴国かわらばん』を発刊しました。今後、発掘調査の記事や写真などを掲載します。

まずは、国指定史跡須玖岡本遺跡岡本地区23次調査（岡本7丁目76番地）の発掘成果をお知らせします。

謎だった岡本7丁目76番地

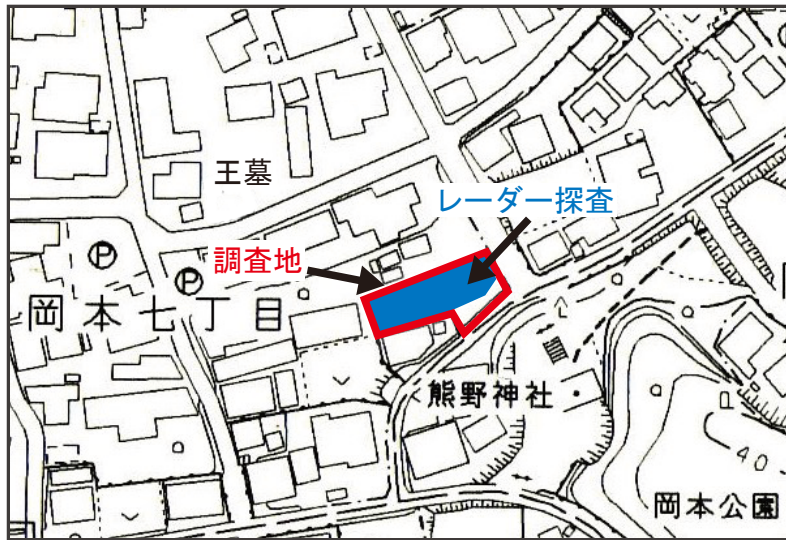
近くには王様の墓なども見つかっていましたが、今回発掘を行った場所はどんな遺跡があるのか、どのくらい掘れば出てくるのかもわかっていませんでした。

まずは、最新の科学技術で調査

昨年度、地中レーダー探査（電磁波を地中に向けて放射し、地中の様子を探る方法）によつて、遺跡がある場所や深さを確認しました。地面から0.8～1 m程の場所に甕棺らしき反応がありました。

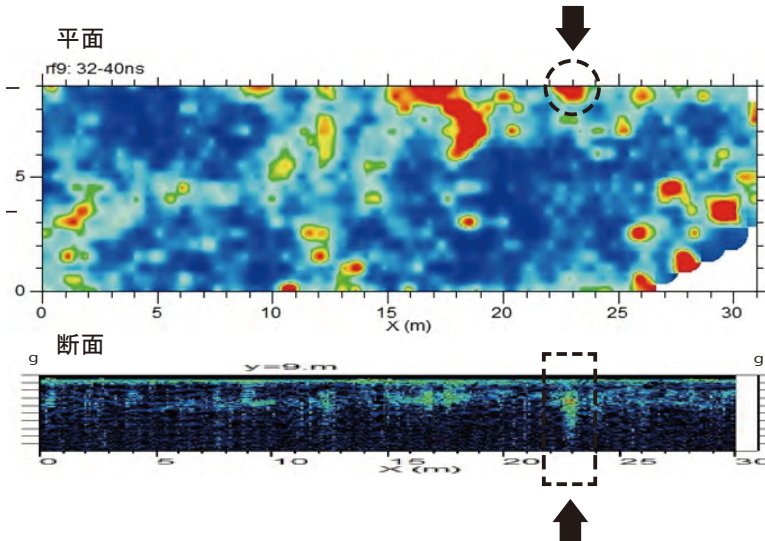
発掘調査で確認

地中レーダー探査の結果を確認するために、発掘調査を行いました。まずは、人力によつて幅1 mの範囲で十字形に発掘を行ったところ深さ0.8 m前後で遺跡が見つかりました。



周辺マップ

矢印の赤い部分が、甕棺らしき反応があった場所



作業員さんの手で遺跡のある深さまで掘削

ついに遺跡を確認！

重機で遺跡の上に堆積した土を取り除きました。全体に建物の柱穴と考えられる穴が見つかり、中に埋まっていた土器から弥生時代の穴と飛鳥時代頃の穴だと分かりました。

また、東部は、弥生時代の竪穴住居跡と考えられる遺跡。西部には、弥生土器を含む黒褐色の土が広がっていました。黒褐色の土は南側から北側へ、東側から西側へ厚く堆積しているため、もともとの地形は、南側から東側が高く、北側から西側へ低くなることが分かりました。



全景写真（上が北）：右側の黒褐色の部分が住居跡

住居跡は青銅器工房か？

竪穴住居跡は後世の造成により大きく削られ、床面しか残っていませんでした。土を慎重に取り除くと、2000年以上前の弥生土器や青銅器の鋳型が出ました。鋳型は石製で武器の鋳型です。出土状態から、この場所で使われたものが捨てられたと考えられるため、この住居で青銅器が作られた可能性があります。

結局、地中レーダー探査の反応は、甕棺ではありませんでした。今後は発掘調査の結果と比較検証する必要があります。



白く囲んだ部分から、多くの青銅器鋳型片が出土しました。

青銅武器の鋳型

青銅器の鋳型は春日市では大小250点以上が出土していますが、他の市や町の遺跡でこのようにたくさん出土することはありません。弥生時代の青銅器生産は当時の超ハイテク技術であり、春日市岡本周辺がいかに発展していたかを知ることができます。



切先鋳型



武器の鋳型

【問い合わせ先】 奴国の丘歴史資料館

Tel 092 (501) 1144
Fax 092 (573) 1077